

旧荏原第四中学校跡地 ワークショップだより

旧荏原第四中学校は昭和39年に現在の場所に建てられ、約60年が経過し老朽化が進んでいます。

平成23年に閉校し、現在は保育園や野球、サッカー、バレーボール等の活動場所として地域利用されています。また、有事の際の区民避難所としての機能も有しています。

将来の活用方針について、ワークショップを開催し、区民の皆様のご意見をお聞きしました。



(平成10年頃撮影)

ワークショップを開催しました！

旧荏原第四中学校跡地の活用検討について、3回に分けてワークショップを行いました。公募による36名の方に参加していただき、幅広い世代からご意見を伺いました。

開催場所：旧荏原第四中学校

	開催日	参加者
第1回	令和5年5月13日（土） 10:00～12:00	14名
第2回	令和5年5月19日（金） 18:00～20:00	14名
第3回	令和5年5月27日（土） 10:00～12:00	8名

【当日のプログラム】

- 1 旧荏原第四中学校について
- 2 旧荏原第四中学校跡地の現在（近年の活用状況）
- 3 まちづくりの方針や状況など
- 4 導入機能（世論調査の結果）
- 5 本日のワークショップについて
- 6 発表

ワークショップの様子

ワークショップでは、2～3つのグループに分かれて、旧荏原第四中学校跡地を有効活用するためのアイデア出しや、意見交換をしていただきました。

オリエンテーション

- ✓ ワークを行う前に、参加者の皆様には、旧荏原第四中学校の歴史や現在の使われ方、周辺の立地状況、人口動向などの状況を説明しました。



グループ ワーク

様々なご意見が出され、大変盛り上がりました。

- ✓ 旧荏原第四中学校跡地に整備が必要な施設、併せてその施設が「なぜ必要なのか」の目的を考えていただきました。
- ✓ 1人1人に導入施設とその目的について発表していただき、意見をグルーピングしました。その後、グループごとにまとめた内容について、意見交換を行いました。



全体発表

- ✓ 各グループでまとめた内容を、発表しました。



今後の進め方

旧荏原第四中学校跡地の導入施設については、ワークショップでいただいたご意見や、区が必要と考える施設、現状の使われ方など、総合的に検討していきます。

ご意見

+

行政需要

+

現状の
使われ方

旧荏原第四中学校跡地に必要な
導入施設

ワークショップの結果は、下記のスケジュール（予定）に示す、「旧荏原第四中学校跡地活用方針策定委員会」に報告します。

スケジュール（予定）

令和
5年

- ✓ 7月～11月頃
旧荏原第四中学校跡地活用方針策定委員会
3回程度 開催予定
- ✓ 12月頃
パブリックコメント

令和
6年

- ✓ 1～2月頃
第4回委員会
- ✓ 3月頃
住民説明会

各グループにおける『主なご意見』

参加者の皆様から、たくさんのご意見を頂きました！

第1回

- ✓ 障害者・高齢者・外国人・学生など、誰もが気兼ねなく使いやすい、バリアフリー化されたインクルーシブな施設。
- ✓ 障害者・高齢者・外国人・学生などによって、それぞれの施設を分けてつくるのではなく、様々な方が同じ空間を共有することで、“つながり”や“学び”が生まれる、コミュニティセンター。
- ✓ 学校や仕事に行けない人たちの居場所。
- ✓ 様々な区民活動やスポーツなどができるような場所。
- ✓ 避難場所は、近隣の方のためだけでなく、障害者・高齢者・外国人・若者などが、必要なケアを受けながら、安心して避難や一時滞在ができる場所とする。
- ✓ 荏原地区に不足する障害者のための施設。

- ✓ 発達障害などの人を支援する施設と連携したスポーツ・文化分野の学び場、創造・コミュニティの場所。
- ✓ 品川の文化を作るための施設や育成の場所、子どもたちの情操教育につながる場所。
- ✓ 1つの施設にこだわるのではなく、多様な人々が生き生き暮らすため、多世代交流ができる複合的な施設。
- ✓ 災害時の避難所機能をもつ宿泊施設。
- ✓ 駅前に集まる人が商業施設。
- ✓ 施設を作るにあたり、道路の拡幅が必要。

- ✓ 旧荏原四中が担ってきた防災機能の維持。防災対策は、ハード面（施設）だけでなく、人と人のつながりなどソフト面も重要。
- ✓ 平常時には地域のつながりを育む場、災害時には防災機能を発揮するなど、地域の安心・安全の拠り所となる使い方。
- ✓ 高齢者、子ども、若者など、多世代が集い楽しめる「居場所」づくり（複合的な施設、第3の居場所）。
- ✓ 看護・介護中でも近くで働ける場所。昼間、地域に働き世代（20～50代）がいることで、いざという時の安心感にもつながる（防犯面からも安心）。
- ✓ 障害者の社会参加（就労支援）や海外の留学生の宿泊施設を設けて、子どもたちや地域の人との交流のきっかけづくりができる場所。

第2回

- ✓ 災害時に人々が逃げ込めるような「防災拠点」や「避難所」としての役割が第一。
- ✓ 地域の防災力を高めるためには、消防署戸越出張所の老朽化や緊急車両の不足への対応も必要。平常時には、自然・農業・スポーツなどができる、オープンな空間が必要。
- ✓ 若者・外国人・障害者・社会的弱者をサポートしたり、お互いに助け合うことができる機能が必要（災害時にも役立つ施設）。限られた敷地の中で様々な機能を実現するためには、地下を使う。大井町線の高架化に合わせて一体で使う。特定の用途に限定しない等の工夫が必要。

- ✓ 有事の際のまちの安心・安全のため、防災や避難施設がほしい。荏原消防署が老朽化しており、施設規模も小さく、建替えの検討が必要。平常時はスポーツや自然を楽しむ広場、子どもたちのための場所として活用。
- ✓ 子どもたちのための火が使えるプレイパーク。大人と一緒に消火活動訓練ができる場所。高齢者がふらっときて子どもたちを眺める場所。子どもがカギではあるが、誰が来てもよい場所。
- ✓ 大人や子どもで分けるのではなく、多様な人が使える施設。様々な人が利用する事で幸せな風景が生まれる事を期待。
- ✓ 増加する高齢者に対応した、高齢者のための施設。

- ✓ 今ある防災機能は残すべき。避難所や防災公園など災害に強いまち。
- ✓ 高齢者や障害者が楽しめる施設に避難機能を併用して安心して過ごせる場所。
- ✓ 「施設」ではなく、みんなが集まる広場（はらっぱ）をつくり、犬も飼い主も楽しめるスペース。ピクニック、キャンプ・バーベキュー（＝災害時にも活用可能な設備）などが楽しめる場所。
- ✓ 子ども・若者・高齢者が自由に活動できる場所。
- ✓ 品川区全体としてスポーツができる場所（プロも一般も）が少ないので、屋内外問わずスポーツができる施設を整備して、スポーツを通じた交流や人を呼び込めるまち。

第3回

- ✓ 子ども・若者・障害者・高齢者・外国人などにとっての居場所となり、食べる・働く・学ぶ・体験などを行えるような場所。
- ✓ 施設を個別に分けるのではなく、多様な人々が共有するような大きなスペース（屋外スペース、フリースペースなど）を設けることによって、人々が交流したり地域と関わるきっかけを生み出せると良い。
- ✓ 地域の防災拠点。大きなスペースは防災訓練の場所。荏原消防署戸越出張所の機能を移設。
- ✓ 多機能な場所・フレキシブルな大空間・リタイア人材の活用などにより、すべてを満たした施設。

- ✓ 青少年施設を多機能化して防災と育成の拠点とする。
- ✓ 避難所はバリアフリー化する。高齢者も障害者も安全に避難できる場所。
- ✓ 自由な遊び（火が使えるなど）ができる芝生などの広場。地域活動の場。災害時にペットと避難できる避難所やペットが走り回れる場所。
- ✓ 芝生広場。メンテナンスは多少手間でも人工芝だとグラウンドの使い方が限定されてしまう。
- ✓ 高齢者や子どものための施設は充実していると思うので、中高生が活動できる場所。
- ✓ 特定の施設ではなく、用途を区分しない今までにないような施設（24時間開放）。



お問い合わせ先
品川区企画部企画課
政策推進担当

TEL：03-5742-7863